

平成 27 年度第 3 回大阪府都市計画審議会常務委員会

日時：平成 27 年 12 月 10 日（木）午前 10 時～午前 11 時

場所：大阪府公館

- 自然災害について、答申は相対的に中長期的に大阪府の都市計画を考えていくガイドラインとなるので、広島豪雨や関東・東北豪雨も決して小さな災害ではないが、大阪府の防災対策の観点から特に明記すべきかどうか。
- 2つの災害を具体的な例として、明記する意味もあるため、書き振りについて検討してはどうか。
- 阪神淡路大震災は、前回のあり方の答申以降に起きた災害でないとしても、都市型災害のリスク・脅威に対する対応の重要性を突きつけた災害であった。特段理由がないのであれば、どこかに阪神淡路大震災について記載するのも良いと思う。今後過去を上回る大災害がおきることも指摘されているので、かつてこの周辺で経験した災害について適宜触れてもらえたら。
- 市町村の都市計画について、都市空間の再編（立地適正化計画・コンパクトシティ等）は今後 20 年の大きな取組になるだろう。この都市計画のあり方は都市圏が大きな枠組みであり、都市圏全体としてはコンパクトシティ化を考えなくてよいのではないかという流れだが、個別には再編していく必要はあると思う。
- 現状はコンパクトになっているという文面はあるが、コンパクト化していくというキーワードがない。市町村が進めるコンパクトシティの取組みや空間再編と連動しながら、広域生活圏についてはこのように取り組んでいくことを触れてもいいのでは。
- 近年、都市計画道路の見直し等が進んでいるが、車道を歩行者空間に変えるような空間の再配分・使い方を変えていくという議論もあるが、どこから読み取ったらよいか。
- 都市マネジメントの推進において、既存のストックを有効活用し、次世代型の都市空間に転換していくという言い方もある。
- 良質なストックを効果的に活用するという部分をどこまで拡大解釈するか。
既存ストックがそれぞれ持っている機能に対して、使い方を変えていくことは道路だけでなく公園など、すべての局面で出てくる。その際には維持管理や担い手の確保等のマネジメントの仕組みがあった上で、これからのニーズに合わせて変えていく。
- 多様な暮らしを選択でき、多様であることで選択制が増えていく。“多様性”といった内容が全体的に見受けられて良い。
- 今までの災害経験として、もう少し近隣他府県や過去の災害について触れておくと、自然災害の脆弱性について結びつきやすい。ゲリラ豪雨が頻繁に起こっており、都市型洪水・内水災害も起こりうるので、気候変動についても記載してはどうか。
- 国を挙げて地方創生を推進しているが、大阪府は、日本経済・日本社会の発展の一翼を担う都市圏として、地方創生の問題とは異質な位置付けであり、しかし、ミクロで見れば色々なところにほころびがあり、そのようなところは再生していかないといけない。
- 外国人の受け入れ環境水準の低さについて異論はないが、記載内容のスケール感が小さい。観光を都市計画の基盤に据えないといけないくらいのスケールで記載してはどうか。